

2023年9月7日

中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ 2023年度前期活動報告書

抄録

今期の総セッション数は、441件、稼働率は57.09%であった（I-3）。前年度は全日開室を週1、半日開室を週4で行ったが、今期は全日開室を週2回とした。前年度同時期の稼働率（53.44%）と比較して今期の稼働率は上昇したことから、開室時間の延長は妥当であったと言える。セッション形式に関しては、総セッション数のうち、対面は286件、オンラインは155件であった。前年度に引き続き、多摩キャンパスの学生は対面セッションの利用の方が多かった。オンラインセッションは主に、多摩キャンパス以外の学生と博士課程在籍の留学生による利用であった。法学部の学生の利用数は2022年度前期とほぼ変化がないものの、同一学生が10回以上利用しているケースもあり、実人数は減少している。法学部学生の利用のきっかけは教員による推奨と『レポートの書き方資料』からラボを知ったというものがほとんどであった。多摩キャンパス以外のキャンパスに在籍する学生への広報の手段として、『レポートの書き方資料』を利用するなどさらなる工夫が求められる。

学期内利用率の推移を見ると、稼働率が60%を超える繁忙期は6月末以降で、期末レポート執筆時の需要の高さが窺える。例年、授業終了と共にラボも閉室していたが、今学期は、期末レポートに関する需要に応えるために、開室を補講期間まで延長した。また、授業期間外の需要を把握するために、8月と9月に一部の期間を除き、週2回の開室を試みた。補講期間の稼働率は60%、8月の稼働率は70%を超え、学期終了後のラボ利用に対する需要の高さが明らかとなった。

最後に、2021年に発行した『レポートの書き方資料』であるが、今学期増刷を行った。学内の教員が講義で利用するケースに加え、他大学の教員がSNS上で本資料の利用を推奨している投稿が見られるなど、学内外で利用がなされている。セッションから得た知見を資料という形でまとめていくことも今後のラボの活動として継続していきたい。

以 上

はじめに

2023年度前期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。Iでは開室状況と利用実績、IIではセッション以外の活動、IIIでは来期において特筆すべき所見を述べる。

I 開室状況と利用実績

I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間:2023年4月10日から2023年7月28日までの月・火・水・木・金曜日

開室時間:14:10~17:40 ※月・木曜日のみ 10:50~17:40

開室日数:75日(前年度73日)

設置セッション数:783コマ(前年度771コマ)¹

アカデミック・ライティング部門長:尹智鉉

スーパーバイザー(SV):中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー(ASV):松井雄志

アソシエイト・スーパーバイザー(ASV):林雅子

シニアチューター(ST):4名(今期1名休職。秋学期から復帰予定)

チューター6名

I-2 受付方針(2023年度前期)

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類(対象文章かそれ以外か)に基づく。

1. 対象文章

授業で課題となったレポート、発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿(スライド、口頭用)、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章

奨学金応募書類に含まれる志望動機書、留学志望書、公務員試験練習課題

日本語翻訳(授業の課題のみ)

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章(キャリアセンターへ案内)、メールや手紙の文章

英語の文章、公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

¹稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。2022年度から稼働率の算出方法を2019年度までのものに戻している。SV/ASVに関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めないこととしている。

I-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数:441 件(うち対面 286 件、オンライン 155 件)(前年度 408 件)

セッション稼働率:57.09%(前年度稼働率 53.44%)²

図 1 と図 2 は、2013年度のライティング・ラボ開設時からの利用状況を示す。2020年度はコロナ禍で稼働率が落ち込んだものの、その後の前期の稼働率をみると、徐々に回復していることがわかる。

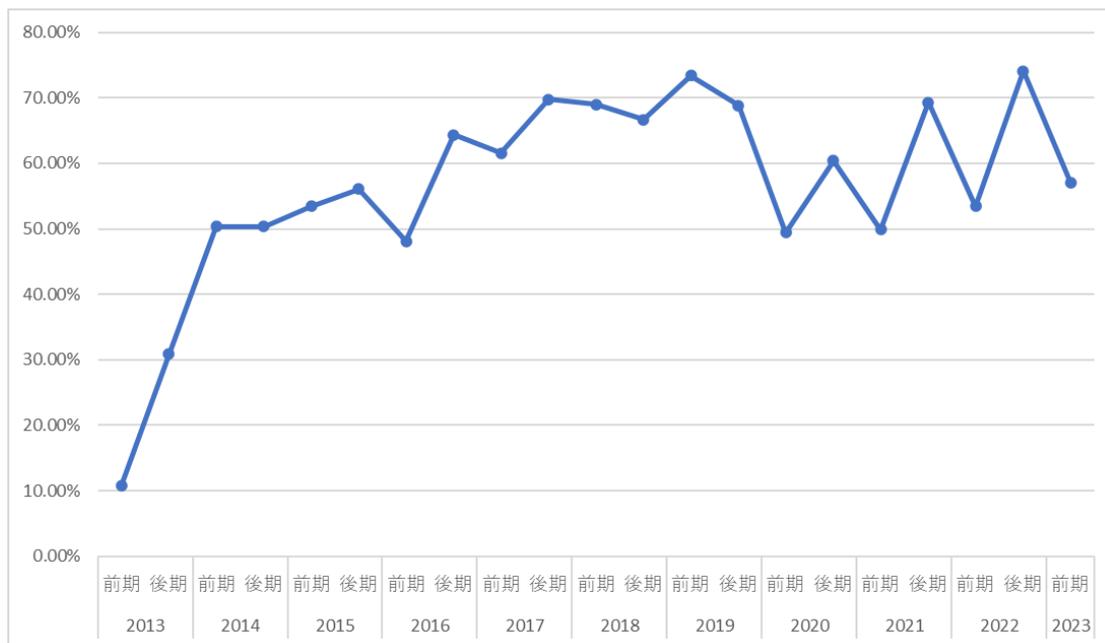


図 1 ライティング・ラボ学期別稼働率の推移

² No Show(予約はしたものの来室せず)については、実施扱いで稼働率を算出した。実際のセッションは 441 回であるが、稼働率の計算に関しては、セッション数は 447 回としている。

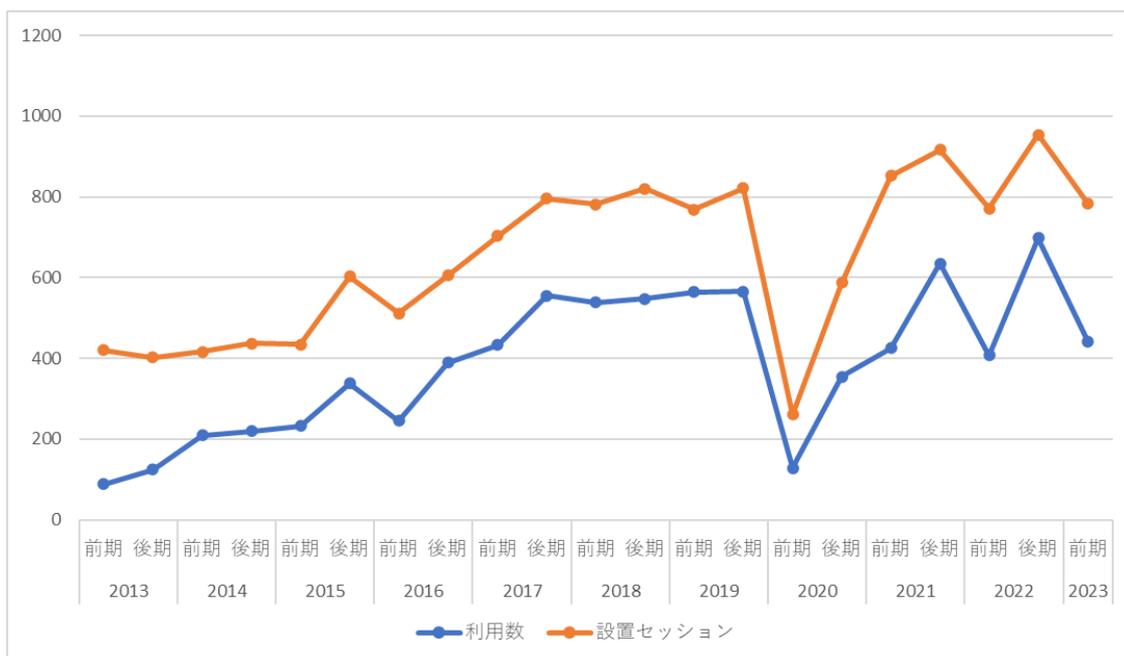


図2 ライティング・ラボ学期別利用数の推移

セッションの稼働実態を把握するため、以下に、週毎の稼働率の推移(図3)、週毎の設置数・稼働数の推移(図4)、週別・曜日別のセッション数と稼働率の表(表1、表2)を示す。これらの図表から、6月中旬以降に利用率が上がり、稼働率は60%を超えたことがわかる。

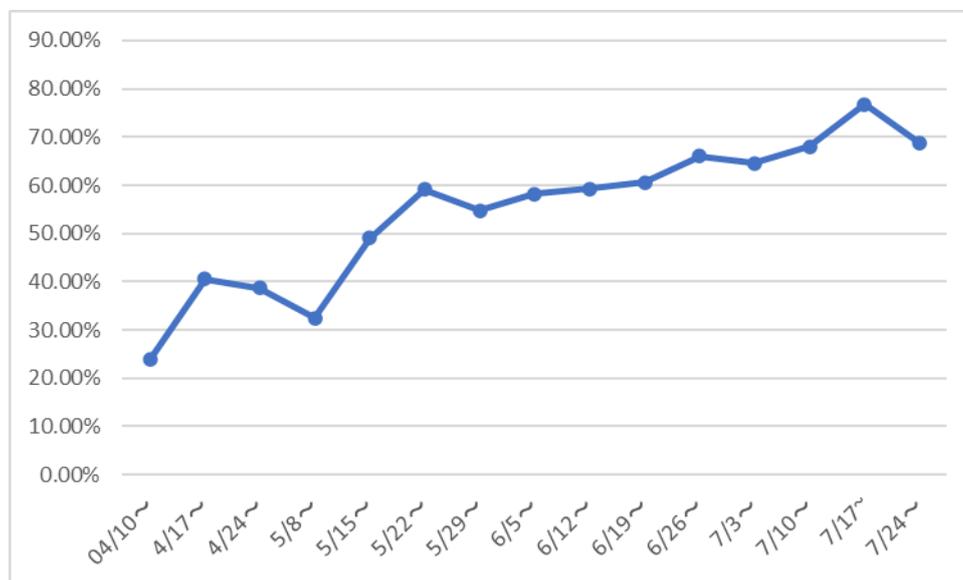


図3 2023年度前期週別セッション稼働率の推移

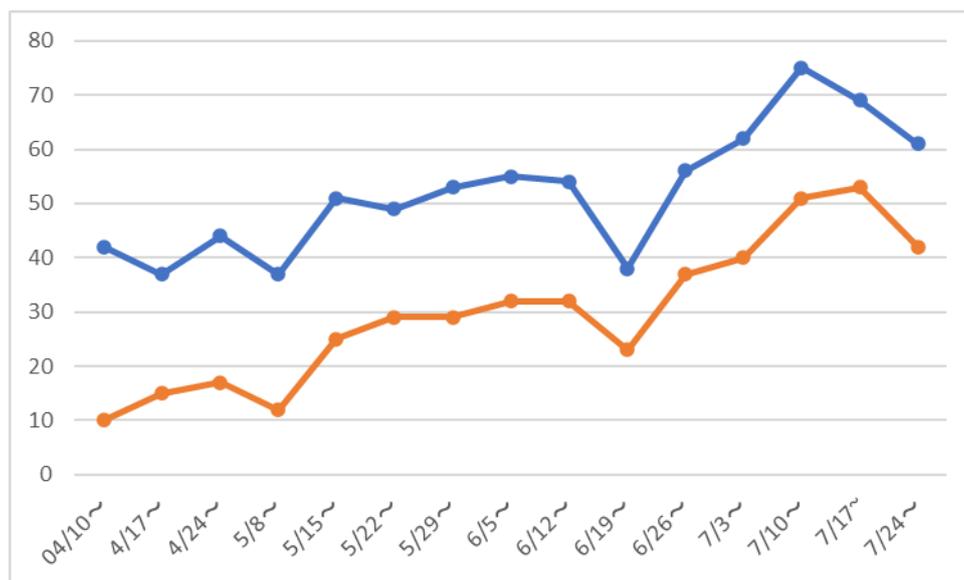


図4 2023年度前期週別セッション設置数・稼働数の推移
(青:設置数、茶:稼働数)

また、表1及び表2から、曜日別に見ると火曜の稼働率が高いが、これはセッション設置数が他曜日と比較して少ないためである。加えて月曜日と木曜日は午前から開室するため、稼働数もセッション設置数も多い。しかし、木曜日はセッション設置数が多いため、稼働率は低くなる傾向がある。

表1 週別・曜日別セッション数・稼働率(4月第2週~6月第1週)

		04/10~	4/17~	4/24~	5/8~	5/15~	5/22~	5/29~	6/5~
月	設置数	8	8	11	8	11	10	14	11
	稼働数	1	4	6	2	7	4	10	6
	稼働率	12.50%	50.00%	54.55%	25.00%	63.64%	40.00%	71.43%	54.55%
火	設置数	4	6	8	5	7	5	6	7
	稼働数	0	5	6	1	6	4	2	3
	稼働率	0.00%	83.33%	75.00%	20.00%	85.71%	80.00%	33.33%	42.86%
水	設置数	8	9	8	8	9	8	10	11
	稼働数	4	3	1	1	3	5	6	9
	稼働率	50.00%	33.33%	12.50%	12.50%	33.33%	62.50%	60.00%	81.82%
木	設置数	14	8	10	12	16	17	15	17
	稼働数	0	1	0	7	6	7	6	8
	稼働率	0.00%	12.50%	0.00%	58.33%	37.50%	41.18%	40.00%	47.06%
金	設置数	8	6	7	4	8	9	8	9
	稼働数	5	2	4	1	3	9	5	6
	稼働率	62.50%	33.33%	57.14%	25.00%	37.50%	100.00%	62.50%	66.67%
計	設置数	42	37	44	37	51	49	53	55
	稼働数	10	15	17	12	25	29	29	32
	稼働率	23.81%	40.54%	38.64%	32.43%	49.02%	59.18%	54.72%	58.18%

表2 週別・曜日別セッション数・稼働率(6月第2週~7月最終週)

		6/12~	6/19~	6/26~	7/3~	7/10~	7/17~	7/24~	前期全体
月	設置数	15	9	13	11	15	18	15	177
	稼働数	12	4	7	8	12	12	13	108
	稼働率	80.00%	44.44%	53.85%	72.73%	80.00%	66.67%	86.67%	61.02%
火	設置数	4	7	8	9	12	11	6	105
	稼働数	0	5	9	7	13	10	4	75
	稼働率	0.00%	71.43%	112.50%	77.78%	108.33%	90.91%	66.67%	71.43%
水	設置数	10	4	11	14	15	13	12	150
	稼働数	8	2	4	6	3	11	6	72
	稼働率	80.00%	50.00%	36.36%	42.86%	20.00%	84.62%	50.00%	48.00%
木	設置数	17	8	14	17	22	18	17	222
	稼働数	8	6	9	10	14	13	8	103
	稼働率	47.06%	75.00%	64.29%	58.82%	63.64%	72.22%	47.06%	46.40%
金	設置数	8	10	10	11	11	9	11	129
	稼働数	4	6	8	9	9	7	11	89
	稼働率	50.00%	60.00%	80.00%	81.82%	81.82%	77.78%	100.00%	68.99%
計	設置数	54	38	56	62	75	69	61	783
	稼働数	32	23	37	40	51	53	42	447
	稼働率	59.26%	60.53%	66.07%	64.52%	68.00%	76.81%	68.85%	57.09%

注) 100%超は、提出期限直前等の学生対応のため、延長等で設置数より多くセッションを行ったことを表している。

表3と表4に、2022年度前期と2023年度前期における月毎のセッション形式の内訳を示した。2022年度前期と比べ、2023年度前期は全体のセッション数が33件増加している。しかしオンラインセッションは45件減少している。

表3 2022年度前期セッション形式の内訳

2022年度前期	4月	5月	6月	7月	計
対面	14	21	76	97	208
オンライン	9	21	56	114	200
計	23	42	132	211	408

表4 2023年度前期セッション形式の内訳

2023年度前期	4月	5月	6月	7月	計
対面	27	58	90	111	286
オンライン	15	25	44	71	155
計	42	83	134	182	441

【所見】

2022年度後期の報告書で記述したように、オンラインでの音声のみによるコミュニケーションへの不安や、キャンパス内で授業の前後にセッションを受けられるという利便性が対面セッションの増加に繋がっていると考えられる。

今期は学部移転に伴い、オンラインセッション数が増えると思っていた。しかし、結果としてオンラインセッション数が減少し、対面セッション数が増加した。セッション形式毎に、利用学生の内訳を把握し、広報などを工夫していきたい。

I-4 利用学生の内訳

*利用学生数(延べ)³

2023年度前期合計 441名(前年度同期 408名)

*初来室数

153名。うち留学生の初来室は22名

表5に各学部、表6に各研究科の2023年度前期の利用状況詳細を年次毎に示す。利用数の最も多い学部は、文学部である。学部に関しては、学年で見ると、初年次の利用が最も多く、ついて4年次の利用が続く。

表5 2023年度前期各学部毎の利用状況詳細

学部	B1	B2	B3	B4	B5上	計
法学部	21	14	8	10	13	66
通信教育課程	0	0	0	0	0	0
経済学部	17	3	18	7	0	45
商学部	14	3	4	22	0	43
文学部	39	20	17	35	0	111
理工学部	0	0	0	0	0	0
総合政策学部	23	2	7	0	5	37
国際経営学部	4	6	1	11	8	30
国際情報学部	2	0	0	0	0	2
全学部	120	48	55	85	26	334

研究科に関しても文学研究科の利用が顕著である。大学院の留学生に関しては同一学生の複数回利用が顕著であり、ゼミでの発表資料、修論など継続しての利用が見られる。一方で、日本語文法のチェックのみに一時的に利用する留学生も多い。

表6 2023年度前期各研究科毎の利用状況詳細

研究科	M1	M2	M3上	D1	D2	D3	D4上	研究生等	計
法学研究科	11	0	0	5	0	0	5	0	21
経済学研究科	6	1	0	0	0	0	0	0	7
商学研究科	8	0	0	0	0	0	0	0	8
文学研究科	23	9	0	2	0	0	19	0	53
理工学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合政策研究科	1	17	0	0	0	0	0	0	18
全研究科	49	27	0	7	0	0	24	0	107

³ 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

I-5 相談文章の種類（）内は留学生の人数

授業のレポート	230 件(49 件)
授業の発表資料	31 件(9 件)
研究計画書	33 件(25 件)
卒業論文	53 件(1 件)
修士論文	20 件(20 件)
博士論文	0 件(0 件)
投稿論文・研究ノート	29 件(26 件)
学外での発表資料	4 件(0 件)
その他	41 件(16 件)

【所見】

法学部の前年同時期の利用者数は 72 名であり、今期の66人と比較すると、大きな変化はない。しかしながら、B5 以上の利用数の13人は同一学生が 13 回利用したものであることを考慮すると、法学部の利用学生の実人数は減少したと考えられる。文学部については、前年同時期の利用者数が 87 名であったのに対し、今期は 111 名となり、24 件増加している。

利用学生の所属内訳も前年度と変わらず、日本人学生では文学部と法学部の利用が多い。授業のレポート執筆にあたり、教員からの利用推奨が今期も多かったためだと考えられる。法学部については、利用のきっかけが「教員からの推奨」と「『レポートの書き方資料』でラボを知った」というものが多く、今後の広報の工夫が求められる。

留学生については、法学研究科と文学研究科の利用が今期も多く、同じ学生による複数回利用の傾向が顕著である。

相談文章についてもほぼ前年度と変化なく、最も利用される課題は授業のレポートである。2022年度前期は卒業論文、修士論文、博士論文に関する利用の合計数は 54 件であった。今期は、卒業論文54件、修士論文20件となり、卒論、修論に関する利用者数が増加している。なお、日本人大学院生の利用が低いという点は継続した課題である。

I-6 利用学生のアンケート

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケートに協力してもらった。対面では紙面にて、オンラインは Google フォームにて実施した。対面では 188 通、オンラインでは 25 通を回収した。質問項目と結果を以下に示していく。

ライティング・ラボを知ったきっかけ

回答の重複を避けるため、ライティング・ラボを知ったきっかけについては、予約フォームにて初回利用の学生に限定してたずねた。回答件数と割合を表7にまとめた。

表7 ライティング・ラボを知ったきっかけ(複数回答可)

きっかけ	全体の件数 (%)	うち留学生の件数 (%)
ラボの HP/SNS	19 (10.1)	3 (8.6)
授業で知った/先生にすすめられた	95 (50.3)	14 (40.0)

友人／先輩／後輩にすすめられた	10 (5.3)	3 (8.6)
『レポートの書き方資料』で知った	18 (9.5)	4 (11.4)
学内のポスターやパンフレットで知った	27 (14.3)	6 (17.1)
ラボのイベント(講座など)で知った	7 (3.7)	1 (2.9)
入学時のガイダンス／資料で知った	5 (2.6)	4 (11.4)
その他	8 (4.2)	0 (0.0)
計	189 (100.0)	35 (100.0)

【所見】

きっかけは教員の推奨によるものが多かった。今後も教員への宣伝を継続し、学生への周知につなげたい。また、『レポートの書き方資料』で知った」という項目に着目したい。2023年4月25日にツイッター(X)にて、山口大学の教員が各大学のアカデミック・ライティングの資料の中でも中央大学 ASC ライティング・ラボの出しているものが素晴らしいと投稿し、18万件以上閲覧されていた。こうしたセッション以外の活動によって、ラボの存在だけでなくラボを利用する意義についても学生にアピールしていくことが求められるだろう。

セッションは有益だったか⁴

ここからはセッション後のアンケートの回答をまとめていく。比較として、前年度(22年度前期)の回答も併記した。まず、セッションが有益だったかどうかに対する回答人数と割合を、セッション形式別にまとめたものが表8である。

表8 セッションは有益だったか

回答項目	今年度の回答人数(%)		前年度の回答人数(%)	
	対面	オンライン	対面	オンライン
有益ではなかった	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
あまり有益ではなかった	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
どちらともいえない	2 (1.1)	1 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
有益だった	33 (17.6)	2 (8.0)	20 (16.5)	0 (0.0)
とても有益だった	153 (81.4)	20 (80.0)	101 (83.5)	12 (100.0)

⁴ 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「どちらともいえない」「有益だった」「とても有益だった」の5段階評価。

計	188 (100.0)	25 (100.0)	121 (100.0)	12 (100.0)
---	----------------	---------------	----------------	---------------

セッションが有益だと感じた理由

セッションが有益だと感じた理由を、自由記述（任意）でたずねた。得られた回答では、チューターとのやり取りを通して、文章の書き方や今後の方向性、文章に対する気づきや自信が得られたことなどが述べられていた。以下に回答を一部抜粋してまとめていく。

*今後の方向性や目的の明確化

<対面>

- ・レポートをどのように進めればいいのか道筋ができた。
- ・終わらないと思っていたレポートに終わりが見えたから。
- ・今後の方向性について一人でどうすれば良いか分からなかったが決めることができた。

<オンライン>

- ・私の拙い言葉を的確に文章化して頂けてとても助かりました。また、何を書くべきか、現時点で何が必要で何が足りていないかもわかり、これから文章を書く上での大きな指針ともなりました。

*自分の文章の問題点の気づきと疑問点の解消

<対面>

- ・自分としては文章で気になる点というのがなかったため、その点を気づかせてくれるという点で、とても意義のあるものでありました。またさらなる学びにつながりました。
- ・こちら側から質問したことに丁寧に答えていただけただけでなく、わからないことはありますか？と疑問が残らないように教えてくれたのと、こちら側の発言などをわかりやすくまとめてくれたからです。
- ・全く違う内容や論点が違うレポートを書いていたのを正してくださったため。

<オンライン>

- ・自分の気づかなかった部分を指摘してもらえたから。
- ・自分以外の人と文を確認することによって、自分だけでは気づけなかったところに気づけたり、本当にあっているか不安だった内容を一緒に変えてもらえたりして、自分の文が分かりやすいものになったと感じた。

*文章に対する不安の解消とポジティブフィードバックによる自信

<対面>

- ・構成を組み直ただけで、一気に進み、最終的な結論まで導くことができた。親身に相談にのってくださり、本当に有意義な時間でした。
- ・構成について丁寧に教えていただいて助かりました。参考文献の書き方が不安だったので、そこも見てくださいうれしかったです。
- ・頭の中がぐちゃぐちゃになっていたのがとてもすっきりできた。また、適度にほめてくださるので、次もまた頑張ろうと思った。

<オンライン>

- ・親身になって添削してくださり、適切に指摘をしていただいて自分の文章に自信を持つことができました。

*内容や思考の整理と明確化

<対面>

- ・どのようなことを書けばよいか、全然分からなかったけど、話をしていくうちに自分の考えがまとまっていることに気がついて、書けそうと思えた。
- ・どういう観点から論じていけば良いか、取り扱いたい話題に私がどう思っているのか、たくさん何か、なぜかという質問をしていただき、自分の漠然とした考えを言語化していただき、頭の中が少しすっきりしました。

<オンライン>

- ・いろいろな質問をしてもらったことで、まとまっていなかった自分の考えを整理することができた。
- ・大変参考になりました。混乱した考えを丁寧に整理してくれました。

また、今年度のオンラインセッションで唯一「有益ではなかった」と回答していた学生は、以下のように理由を述べていた。

- ・今回は、レポートの構成を確認するために、ライティング・ラボを申し込んでいるところ、文法等細かいことについて、アドバイスをもらった。次回からは、学生が求めていることにフォーカスして、アドバイスをもらうとより有益になるのではないかと考える。

【所見】

セッションについて、対面とオンラインともに8割以上の学生が「有益だった」「とても有益だった」と回答していた。一方で、「有益ではなかった」という回答について、チューターが優先した検討箇所と学生の希望にズレがあり、なぜそれを今検討しなくてはならないのか(例えば、文章診断したところ、他に大きな課題点を見つけたから、締め切りまでに修正できる箇所が限られていたからなど)が、学生にうまく伝わらなかったことが推測される。対面セッションで「どちらともいえない」に回答した学生のうちのひとりも、後述の「対面セッションで困った点」として「チューターとの意思疎通が難しかった」を選択していた。

限られた時間内でいかに学生と円滑に意思疎通を図っていくかという点で、今後も工夫が求められる。実際に、上述の有益だと感じた理由でも、チューターからの質問や指摘によって思考が整理され、文章を書くことに対する不安が解消されたことが挙げられている。ラボの理念に沿ったセッションが行えるよう、今後もチューター研修を重ねていく必要がある。

セッションの時間⁵

次に、セッションの時間についてどう感じたかについての回答人数と割合を表9に示した。

⁵ 「短かった」「少し短かった」「妥当だった、ちょうどよかった」「少し長かった」「長かった」の5段階評価。

表9 セッションの時間についてどう感じたか

回答項目	今年度の回答人数 (%)		前年度の回答人数 (%)	
	対面	オンライン	対面	オンライン
短かった	6 (3.2)	3 (12.0)	3 (2.5)	0 (0.0)
少し短かった	26 (13.8)	4 (16.0)	22 (18.3)	0 (0.0)
妥当だった、ちょうどよかった	155 (82.4)	16 (64.0)	93 (77.5)	12 (100.0)
少し長かった	1 (0.5)	1 (4.0)	1 (0.8)	0 (0.0)
長かった	0 (0.0)	1 (4.0)	1 (0.8)	0 (0.0)
計	188 (100.0)	25 (100.0)	120 (100.0)	12 (100.0)
注)前年度 1名回答なし				

【所見】

今年度のオンラインセッションにて、「長かった」を選択していたのは前述の「セッションは有益であったか」の質問で「有益ではなかった」と回答した学生である。自分の希望と異なる方向でセッションが進められていると感じていたために、こうした回答になったのではないだろうか。一方で、対面セッションで「少し長かった」を選択していた学生は「とても有益であった」と回答していた。後述の「対面セッションで良かった点」にて「チューターとの意思疎通がしやすかった」を選択しており、自分にとっては十分すぎるほど検討してくれたと感じたことが推測される。

また、対面とオンラインどちらも大半の学生がセッション時間を妥当であると回答していたが、一部の学生は「少し短かった」「短かった」と感じていた。本学の授業時間が100分であるのに対し、セッション時間は40分であるため、相対的に短く感じたのかもしれない。限られた時間の中で充足感が得られるよう、セッションの進め方をさらに改善していきたい。

対面セッションの良かった点と困った点

セッションの良かった点/困った点について、セッション形式別にたずね、表にまとめた。まず、表10に対面セッションの良かった点、表11に対面セッションで困った点の回答件数と割合を示した。

表10 対面セッションの良かった点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
場所がわかりやすかった	45 (11.7)	19 (8.0)
セッションブースなどの環境が整っていた	66 (17.2)	49 (20.7)
文章の共有が楽だった	104 (27.2)	61 (25.7)
チューターとの意思疎通がしやすかった	158 (41.3)	103 (43.5)

その他	8 (2.1)	3 (1.3)
回答なし	2 (0.5)	2 (0.8)
計	383 (100.0)	237 (100.0)

表 11 対面セッションで困った点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
場所がわかりにくかった	12 (6.3)	17 (14.0)
セッションブースなどの 環境整備に問題がある	6 (3.1)	2 (1.7)
文章共有の準備に手間取った	9 (4.7)	7 (5.8)
チューターとの意思疎通が 難しかった	3 (1.6)	2 (1.7)
その他	9 (4.7)	1 (0.8)
回答なし	152 (79.6)	92 (76.0)
計	191 (100.0)	121 (100.0)

オンラインセッションの良かった点と困った点

次にオンラインセッションについて、表 12 にオンラインセッションの良かった点、表 13 にオンラインセッションで困った点の回答件数と割合を示した。

表 12 オンラインセッションの良かった点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
移動の手間が省けた	20 (47.6)	12 (50.0)
文章やデータの事前共有が 楽だった	14 (33.3)	7 (29.2)
対面とは異なり緊張せずに 済んだ	7 (16.7)	5 (20.8)
特になし	1 (2.4)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)
計	42 (100.0)	24 (100.0)

表 13 オンラインセッションで困った点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
場所の確保が難しかった	1 (4.0)	0 (0.0)
文章やデータの事前共有が大変だった	0 (0.0)	2 (15.4)
どのように操作すればよいのかわからず不安だった	1 (4.0)	2 (15.4)
チューターの声が聞き取りづらいときがあった	0 (0.40)	2 (15.4)
特になし	22 (88.8)	7 (53.8)
その他	1 (4.0)	0 (0.0)
計	25 (100.0)	13 (100.0)

より良いライティング・ラボにするためのアドバイス

最後に、より良いライティング・ラボにするためのアドバイスを自由記述(任意)で回答を求めた。以下に回答を一部抜粋してまとめていく。

*感謝の表明と継続利用の意思(回答多数)

- ・自分の頭の中が整理されて、対面で行うことでより意思疎通がとれてよかったです。いい論文が書けるようにがんばります。
- ・的確で明確なアドバイスが頂けて大変有益でした。ありがとうございました。
- ・よく頭の中がぐちゃぐちゃになるので、また利用させていただきます。
- ・本日はありがとうございました。また来たいと思います!!

*セッション時間の延長希望

- ・もうちょい長くやりたい。
- ・長い文章の場合、時間を増したほうがいいかな。

*場所の案内や環境に関する要望(対面セッション)

- ・場所が少しわかりにくいので、フォレストゲートウェイの中にもう少しわかりやすい案内を増やしてもいいと思います。
- ・パーテーションを取っていただけたらうれしいです。
- ・プライバシースペースが欲しいです。

*ラボの利用に関する要望

- ・複数のセッションを一緒に予約することができればありがたいです。
- ・可能であれば同じ学部の方に対応していただきたいです。

・親切にご指導していただき大変満足です。利用日数を増やしていただけたらありがたいです。

***現状に不満がないことの表明**

- ・特になし(回答多数)
- ・とくにありません!清潔で使いやすかったのでまた使いたいです。
- ・特にありません。とても貴重な時間を過ごすことができました。

【所見】

対面セッションについて、前年度に比べ「場所がわかりやすかった」を選択していた割合が高くなり、「場所がわかりにくかった」を選択した割合が低くなっていた。前年度から HP が見やすくなるよう改良を重ねていたため、その効果が出たのであろう。ただし、最後のラボへのアドバイスで、場所の案内を増やしてほしいという意見も見られた。フォレストゲートウェイ内に掲示物を貼ることは規定上難しいため、HP にラボへの経路が記載されていることを今後も周知していきたい。また、対面セッションの学生からパーテーションを取ってほしいという要望がいくつか出ていたが、現在は規制緩和に伴いパーテーションは取り除いてあるため、要望に沿った対応ができていると言えよう。

セッションで困った点で、多くの学生が回答なし、または特になしを選択していた。最後のアドバイスでも感謝の表明や現状への満足を述べる回答が多数を占めており、多くの学生が満足感を得られていることがわかる。上述の要望を改善していき、より多くの学生に対してラボの理念に沿った学びの場を提供できるようにしていきたい。

II セッション以外の活動

II-1 広報活動

II-1-1 出張ガイダンス及び見学ツアーの実施

今学期は、出張ガイダンス 9 件、見学ツアー 11 件、合計 20 件実施した。出張ガイダンスのうち、茗荷谷キャンパスに向けたものは 3 件で、全てオンラインで実施した。

出張ガイダンス/見学ツアーあわせ、基礎演習または専門演習を対象とした実施が 19 件であった。

II-1-2 ワンポイント講座開催

6 月 28 日(水)・29 日(木)に、主に学部 1・2 年生を対象に、ラボの宣伝を主目的としたオンラインと対面形式のワンポイント講座を各 1 回ずつ開催し、合計約 40 名が参加した。

テーマとして『レポートの書き方資料』の観点の 1 つである「序論・本論・結論」を取り上げた。ワンポイント講座の準備過程において当該観点をチューター研修でも検討することから、ワンポイント講座開催はチューター研修の一環としても位置付けている。

オンラインの回については録画し、その一部を HP 上で公開している⁶。出張ガイダンス/見学ツアー申込の際に、アカデミック・ライティングの観点についてのレクチャーを希望する教員に対して、HP 上のワンポイント講座の動画を案内している。

〈オンライン〉

6 月 28 日(水) 12:40-13:10 (参加 25 名)

〈対面〉

6 月 29 日(木) 12:40-13:10 (参加 13 名)

⁶ 学生は画面に映らない設定、チューターは声のみの録音とし公開にあたっては同意書を得た。

*アンケート⁷結果：（回収 25 件）

とても有益だった 17 件
有益だった 8 件

*役に立ったこと

- ・レポートの書き方を学ぶことができた他 6 件
- ・序論本論結論にどのようなことを書けばいいか学べた他 2 件
- ・結論を書く際の癖のようなものに気づいた他 2 件
- ・論文の構成をわかりやすく紹介してもらった他 3 件
- ・レポート課題があるが、書いた経験がなかったから。 1 件
- ・忘れていたことを改めて学ぶことができた。 1 件
- ・自分で考えながらできるように、投票やチャット機能が使われていた。
(オンライン) 1 件
- ・ライティング・ラボがどのような場所か知ることができた他 2 件

*その他感想など

- ・オンラインは参加しやすかった。次回またあれば参加しようと思った。
- ・期末課題について漠然と悩んでいたが、ライティング・ラボがあって良かった。
- ・気軽に相談できることを知れてよかった。
- ・内容が有意義で簡潔だった。開始と終了時間も厳守しており、今までで一番価値ある時間を過ごせた。
- ・レポートの書き方について今更聞きにくくて困っていた。今後ラボを訪れてみたい。
- ・優しい雰囲気ですべての書き方を学ぶことができてよかった。
- ・わかりやすくて論文作成のとき役立つ。ラボも絶対利用しようと思った。

【所見】

今期も出張ガイダンス/見学ツアー後にラボを利用した学生が多く見られた。チューターから話を聞いたり、ラボを見学したりすることが、初回利用への壁低減につながると考えられる。来学期以降も学期開始後の比較的余裕のある時期にできる限り実施していきたい。

ワンポイント講座についても、アンケート結果から講座への参加がライティング・ラボを知るきっかけになっていること、またチューターによる開催が初回利用への壁低減につながっていることがわかった。ワンポイント講座については、今後もチューターが担当する形で企画をしていきたい。

II-2 研修

II-2-1 チューター全体研修

昨年に引き続き、曜日毎に各1回の研修を担当する形で実施した。シニアチューターを中心に、テーマ決め（表14）、事前課題や当日進行の検討、資料作成等を通して協働することで、チューターの学びの深化に加え、チューター間のコミュニケーション活性化を目標とした。

5月11日及び25日は、22年度後期に着任したチューターが実施したセッションか

⁷ 対面、オンラインの回ともに Google フォームを用いて、講座の最後に実施した。

ら、「難しかった」と感じた事例を基に研修を行った。「難しい」と感じた理由の原因などについてチューター間に対話を重ね、従来とは異なる視点から検討してみることで具体的な課題の設定が可能となり、有効な研修へと繋がった。

6月1日と7月5日は、『レポートの書き方資料』の次回改訂時に追加掲載を予定している2項目に関して研修を実施した。「一文一義」「感想文からの脱却」である。両テーマとも、セッションでの検討観点として頻繁に取り上げられ、学生の主体性を重視しながらどのように支援をしていくかという課題がある。今回の研修では、両テーマについて学生への支援の仕方を考えるという点を中心に行った。なお、研修での検討内容は『レポートの書き方資料』の原稿に反映していく予定である。

6月15日は、ワンポイント講座のリハーサルを実施した。特に、オンラインの回で、どのように学生とやりとりをするか、わかりやすく伝えるにはどうしたらいいかという観点から検討を重ねた。

今学期はチューター研修の準備に、より多くの時間を費やすことでチューター間に対話が増えるという結果となった。来学期以降も、時間がある限り、チューター間での対話を伴う研修を企画していきたい。

表14 2023年度前期チューター全体研修の概要

日時	担当	テーマ
4月20日	SV	前期のスケジュール確認、新人チューター紹介
5月11日	月曜日チューター	共同執筆課題において自分の担当箇所以外を理解していない学生への対応
5月25日	木曜前半チューター	内言をうまく外言化できない学生への支援
6月1日	火・水曜日チューター	一文一義について
6月15日	金曜日チューター	大学ワンポイント講座リハーサル実施
7月5日	木曜後半チューター	感想文から脱却するために

なお、上記以外に後期開始前の9月19日（火）に、多摩キャンパス内で対面によるラボスタッフの全体研修を予定している。学期中の全体研修はオンラインで実施しているため、勤務曜日の異なるチューター同士は対面で会う機会がほぼなく、コミュニケーションの取りにくさにつながっている。また、コミュニケーション不足が、チューター同士の学び合いの阻害要因となっている。そこで、授業期間外の時期を利用して、対面による全体研修を実施し、チューター間のコミュニケーションと学び合いを促進する機会を設ける。授業期間外の時期における集合型研修では、チューター間の学び合いを習慣化させ、セッションスキル向上に繋げることが狙いである。

II-2-2 新人チューター研修

今期就任の新人チューター2名に対し、配属曜日のチューターを中心に、文章診断練習・セッション見学・模擬セッションなど約2か月にわたり実施した。両名とも7月には独り立ち審査に合格し、単独セッションを実施している。2期目以降のチューターも参加し、学び合いという点を重視し、全員のレベルアップが図れるような新人研修を継続していきたい。

【所見】

研修については、今後も全体研修/新人チューター研修ともにチューター間の対話を通じた学び合いが生じるよう工夫していきたい。

II-3 夏期開室

昨年度まで、夏季休業期間中は後期開始の1週間前に2日ほど開室を実施してきたが、本年度から開室日を増やし、合計10日間の開室を実施した。

従来は、夏季休業期間における博士課程在籍の留学生のニーズに対し、SVとASVが臨時的に対応していた。本年度は博士課程在籍留学生以外のニーズ把握の位置づけとして開室をしたが、想定以上の利用が見られた。利用目的について、8月前半は学部1,2年生の授業レポート執筆に関するものが多く、8月後半は学部4年生の卒業論文および研究計画書執筆、また博士後期課程の留学生の投稿論文執筆に関する相談が主であった。以下に、夏期開室の詳細を記す。

開室日時:8月と9月の火曜(1S~5S)と木曜(3S~7S)のうち10日間
(8月1,3,22,24,29,31日 9月5,7,12,14日)

セッション形式:対面またはオンライン

夏期開室セッション担当者:SV及びASV

8月セッション設置数:45コマ

8月セッション実施数:32コマ

夏期開室8月稼働率:71.11%

II-4 中大付属杉並高校チューター派遣業務

報告書を別添1に記載。

III 来期に向けた所見

III-1 チューター公募

前期のチューター公募を例年通り実施する。スケジュールは下記のとおりである。多摩キャンパス以外の院生も応募可能である。多摩キャンパス以外に在籍する院生に関しては、研修修了後の勤務先については、できる限りチューターの研究活動を鑑み、基本的に自宅勤務とする。

また、多摩キャンパス以外の院生についても、長期休業中に開催する多摩キャンパスでの全体研修には対面での参加を求める。なお、全体研修では、午前中は新人のみの研修、午後から2期目以降チューターも合流した全体研修となり、新人チューターは全日通しての参加となる。

8月31日	応募書類受付締め切り
9月12日	面接
10月1日	着任

III-2 学生の気づきに関するセッション終了時の支援

学生が持ち込んだ文章には、アカデミック・ライティングに関する問題点が複数ある場合が多い。そのような場合には、チューターが複数ある問題点に優先順位をつけ、優先順位の高いものをセツ

ションで扱っている。文章の論理展開や構成など文章の大枠に関する問題点の検討を優先するため、段落や一文単位に見られる問題点はセッションでは検討できず積み残しとなる場合も少なくない。積み残しとなった問題点については、セッション終了時にチューターから学生に口頭にて指摘をするようにしていた。しかしながら、チューターの経験値により指摘に差が出る場合や、口頭での指摘だけでは利用学生の気づきにつながらない場合もある。また、ラボを利用したことで自分の文章はアカデミック・ライティングにおける問題がすべて解決したと思ってしまう学生もいる。

そこで、今後はラボで検討できるアカデミック・ライティングの観点のチェックリストを作り、積み残しとなった観点到チェックをつけ学生に手渡すことで、残っている問題点の明示化を行いたい。残っている問題点を学生が理解することは自身の文章の推敲のきっかけとなり、また次のラボ利用につなげるという狙いもある。

Ⅲ-3 『レポートの書き方資料』改訂作業

21年に発行した『レポートの書き方資料』に関して、改訂作業を行い、「一文一義」「感想文からの脱却」に関して章の追加を検討する。

上記2つの観点の選択理由は、ライティング・ラボのワークショップ（22年度よりワンポイント講座に変更）にて取り上げたことのある観点であり知見の積み上げがあるため、またセッションでも頻繁に取り上げられる観点であるためである。

前期の全体研修から2つの観点に関して検討を始めており、後期は執筆作業を進め、来年度改訂版を発行するというスケジュールで進めていきたい。

以上

2023年9月7日

スーパーバイザー 中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー 松井雄志

アソシエイト・スーパーバイザー 林雅子

【別添 1】

2023 年度中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ 中央大学杉並高校セッション(前期) 実施報告書

2023 年 7 月 31 日(月)

1. セッション設置数と実績

- ・1セッション 40 分、開室時間①15:45-16:25、②16:30-17:10、③17:15-17:55
- ・前期は 27 回セッションを設置(前年比 56.2%↓)
- ・稼働率は前期 92%であった。のちにも補足するように稼働しなかった 2 つのコマについてもやむ負えず稼働させられなかったものであったため、実質的な「空きコマ」は存在しなかった。

<2023 年の稼働率>

月別	5 月	6 月	計
セッション設置数	3	24	27
セッション実績	3	22	25
稼働率	85.7%	91.6%	92.5%

補足:前期稼働しなかった 2 コマについて

6 月 2 日の最終コマは当日杉並区で大雨のため杉並高校の全校生徒に対して帰宅命令が出たため中止した。また 6 月 16 日の最終コマは生徒が当日学校を欠席したため中止となった。

2. ワークショップ

- ・前期のテーマは前年度に引き続き「テーマの立て方」
- ・参加チューターは中尾チューター、黒須チューター、池内チューターの三名
- ・参加者は 48 人にのぼり、大盛況であった(教室のキャパシティの関係で募集を打ち切った)。
- ・今年度は駒ヶ嶺先生の要望に基づき、「フードロスを少なくするには?」、「ボランティア活動はどうしたら良くなるのか?」、「若者の投票率を上げるにはどうしたら良いか?」、「子供の貧困をどうしたら良いか?」という 4 つの異なるテーマに分けてワークを行った
- ・テーマによって、学生の得意・不得意が分かれた
- 「フードロス」に関するテーマは全体として探究可能な問いへと落とし込むことに成功した。
- 「ボランティア活動」に関するテーマはチューターの助力もあったが、最終的にはより具体的な問いへと絞り込めていた。
- 一方で「若者の選挙」や「子供の貧困」に関するテーマはやや高校生からするとイメージしづらかったようでテーマの絞り込みに苦戦していた。
- ・全体として昨年度に比してより具体的で、論文執筆可能なテーマへと絞り込むことに成功したと言える。

・各グループの立てた問いは以下の URL に記載

https://docs.google.com/document/d/19Eb5wzIBWzdV_v8PtupKv3YgM7CmBn-1/edit

・その時の学生の悩みに沿ったワークショップテーマであったためか、アンケート結果も好評だった。「本日の講座は有益だったと思いますか。」という問いに対して「強くそう思う」「ややそう思う」と答えた学生は全体の 97%に上った。

3. セッションについて

・本年度も昨年度と同様中杉の生徒が授業で使う Google Classroom から Google Meet に接続する形式のオンラインセッションと実際にチューターが学校を訪れる対面セッションを併用した。

・本年度前期は木曜日と金曜日に開講され、一曜日につき一人のチューターが担当した。基本は木曜日を中尾チューターが、金曜日を池内チューターが担当する 2 名体制であった。どちらかのチューターが事情により担当できない場合、黒須チューターが担当することになった。

・昨年度と同様、オンラインセッションは、中杉ミーティングルームで先生の PC を使って接続するか、自宅から通信を行う形で実施の予定であったが、通信に不安を感じる生徒が多かったため、結果としてほとんどの学生が学校から接続した。

4. 所感

・今年度の生徒について

今年度の生徒は、特に初期の学生について、まじめに論文に取り組む生徒が多い印象である。前期初期のワークショップで開催教室を埋めきったという事実も今年度の生徒たちの論文へ取り組む姿勢を表している。

ただ、前期も後半になり、夏休みまでに構想（探究マップ）を完成させなくてはならない時期に差し掛かると、昨年度と同様、大きな「自分のやりたいこと」をそのまま問いにしてセッションに望む学生も散見されるようになった。

以上